

2023 年 2 月

Quick Take

Cisco デバイスが ネイティブで Microsoft Teams をサポート



作成者:

RECON
RESEARCH

スポンサー:



This document has been translated from English into Japanese by Acolad. Although this translation was conducted with Recon Research's approval, Recon Research has not verified and is not responsible for the accuracy of the translation.

この文書は、Acolad が英語から日本語に翻訳しています。Recon Research の承認を得て翻訳していますが、

Recon Research は翻訳内容を検証していないため、その正確性については責任を負いません。

ビデオはマルチプラットフォームで考える

オフィスが閉鎖され、全員が在宅勤務を余儀なくされたとき、ビデオ会議は世界中の何百万人もの従業員と組織の生命線になりました。

あれから数年が経ち、ビジネスの世界はハイブリッドになりました。そして、ビデオ会議は以前よりもさらに重要になっています。毎日ではないにせよ、人々が出社するようになって、会社の会議室ではビデオ会議が行われています。

これまで、ほとんどのビデオ会議システムが「標準」と呼ばれる共通言語を使用していました。標準に準拠することで、さまざまなベンダーのシステムとも相互に接続できたのです。

今は、Cisco の Webex、Microsoft Teams、Zoom Meetings、Google Meet など、さまざまなプラットフォームで会議アプリを実行しており、ビデオ システムが異なるとコミュニケーションができないということも発生します。

多くのユーザーは、デスクトップ、ノート PC、モバイルに複数のビデオ会議アプリをインストールすることで、この互換性の問題を回避しています。たとえば、9 時のミーティングには Webex で参加し、10 時のミーティング には Microsoft Teams で参加するといったことも珍しくありません。

残念ながら、会議室ではそのような切り替えはできません。会議室にあるビデオシステムのほとんどは、1 つのビデオ会議プラットフォームしかをサポートしていません。Webex を使用する会議室もあれば、Microsoft Teams、Zoom Meetings、または Google Meet を使用する会議室もあります。

会議室にあるビデオシステムのほとんどは、1 つのビデオ会議プラットフォームしかサポートしていません。

このような単一アプリの会議室からは、互換性のないコラボレーション プラットフォームで開催されている会議には参加できません。

ここで重要になるのが、ビデオ会議の相互運用性（ビデオ相互運用性とも呼ばれます）です。

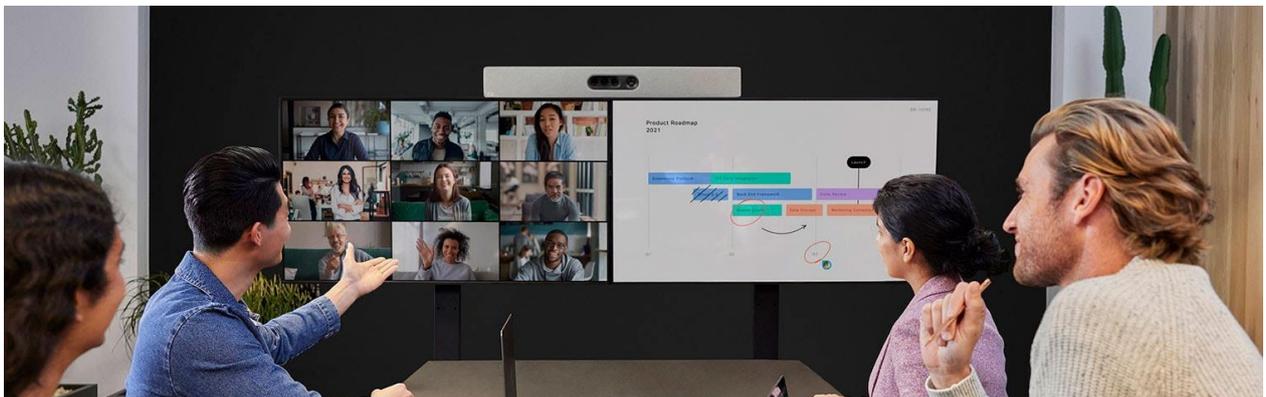


図 1- Cisco Room Kit Pro ビデオ システムでの Webex ビデオ会議

ビデオ相互運用性のパワーと限界

ビデオ相互運用性は、他の会議プラットフォームやサービスでホストされているビデオ会議セッションに参加する機能です。これには、次のようなさまざまなアプローチがあります。

- **Bring Your Own Device** (別名 **BYOD** または **USB パススルー**) – 参加者のノート PC に USB 周辺機器 (カメラ、スピーカー、マイクなど) を接続し、会議室でビデオ会議を主催
- **会議室 PC** – 複数のビデオ会議アプリを実行している標準の PC を使用して、会議室でビデオ通話に参加
- **AV 統合** – 追加の AV 機器を使用して、同じ会議室に BYOD サポートまたは複数のビデオアプリ/プラットフォームから会議に参加
- **ビデオ会議規格** – 標準通信プロトコル (SIP や H.323 など) を使用してプラットフォーム間を接続
- **WebRTC** (別名 **Direct Guest Join**) – ウェブ ブラウザ技術を使用して他のプラットフォームの会議に参加
- **ゲートウェイ サービス** – 異なる会議プラットフォームをつなぐサービスを使用
- **アプリ切り替え** – コラボレーション アプリを切り替えて、他のプラットフォームの会議に参加

ただし、それぞれの相互運用アプローチには長所と短所があります。特定のビデオ システムまたは会議プラットフォームでのみ機能するアプローチもあれば、コストや複雑さがかさむものもあります。また、相互運用を利用しているときには、利用できる機能が少なくなったり、ビデオやオーディオの品質が低下したりすることもあります。

たとえば、Bring Your Own Device アプローチは、BYOD 対応のビデオ デバイスでのみ機能し、ユーザーのノート PC のマイク、スピーカー、およびカメラが必要になり、セッション中は会議専用を使うことになります。

同様に WebRTC アプローチは、WebRTC 対応のビデオ デバイスとプラットフォームでのみ機能し、ネイティブなビデオ会議アプリよりも機能が限定されてしまいます。

これらの制限により、多くの組織は複数のビデオ相互運用アプローチを使用しており、余計なコストと複雑さが追加されています。

重要なのは、ビデオ相互運用により、異なるシステムとプラットフォーム間の通話が続行できるということです。

しかし、高度なビデオ相互運用体験でさえ、ホスト プラットフォーム独自のアプリを使用したネイティブの通話ほど優れていないか、少ない機能しか使えません。



図 2 - Microsoft Teams Rooms アプリを実行している Cisco Room Bar

新しいレベルの柔軟性

近日中にシスコは、管理者のサポートやシステムの再起動なしで、さまざまなビデオ会議アプリ間を切り替えて利用できるビデオ会議システムを提供する最初のベンダーになります。

Recon Research は、この機能を「アプリ スイッチング」と名付けました。

シスコの最新ビデオ システム（以下リストを参照）が、ネイティブの Webex ビデオ デバイスまたはネイティブの Microsoft Teams Rooms（MTR）ビデオ デバイスとして機能します。

- Webex デバイスとして構成されている場合、ビデオシステムが Webex Control Hub に登録されて、次のような Webex 機能を提供してネイティブな会議体験を実現します。
 - SIP / H.323 サポート
 - オンプレミスとクラウドの展開オプション
 - フリーアドレス（Desk シリーズモデル）
 - デジタルサイネージ
 - ブランドに合わせたカスタマイズ
- MTR デバイスとして構成されている場合（Microsoft Teams Rooms ライセンスが必要）、ビデオ システムを Microsoft Admin Center と Webex Control Hub に登録すれば、デバイス管理と高度なワークスペース分析が活用できます（Webex ライセンスが必要）。

この動作モードでは、デバイスは使い慣れた Microsoft Teams Rooms ユーザー インターフェイスを使用し、フル機能のネイティブ Microsoft Teams 会議体験を提供します。

これがどんなに素晴らしいかを説明しましょう。

Teams ミーティングを主催するか参加する場合、これらのシステムは既定のモードで動作し、ネイティブの Microsoft Teams Room アプリを使用します。

以前は、Webex ミーティングに参加するために WebRTC を使用していました。アプリ スイッチングにより、一時的に Webex モードに切り替わり、フル機能の Webex 体験が提供されます。通話が終了すると、システムは Microsoft Teams ルーム モードに戻ります。

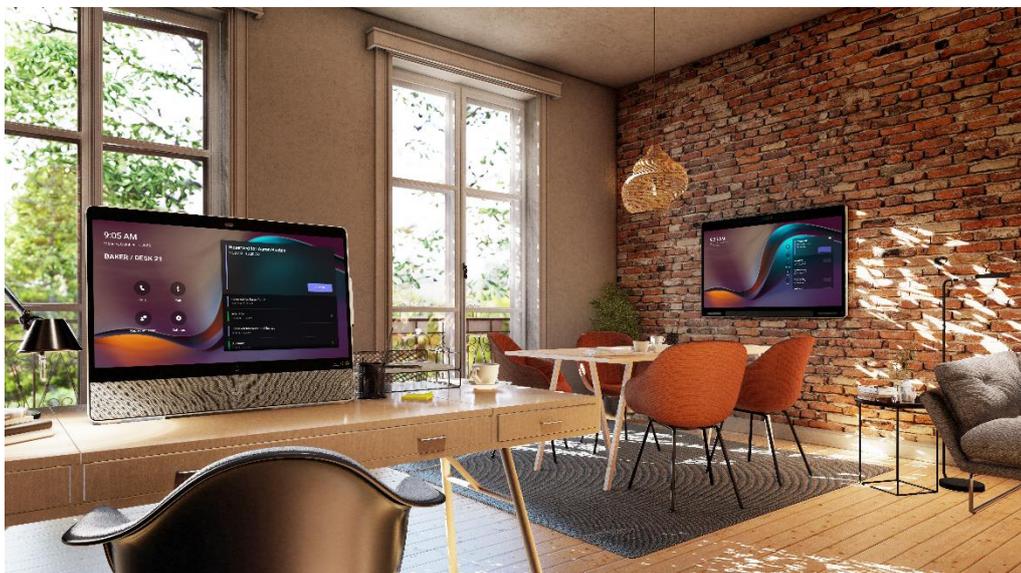


図3 - Microsoft Teams を実行している Cisco Desk Pro（左）と Cisco Board Pro（右）

自動アプリ スイッチングのサポートにより、Cisco デバイスのお客様は、Webex と Teams の両方の会議中に、管理者のサポートや再起動を待つことなく、同じ部屋とデバイスからネイティブの会議体験を楽しむことができます。

さらに、会議室のユーザーは、Webex と Teams の両方の会議で、Cisco Webex デバイスの AI 機能（背景のぼかしおよび置換、ノイズ除去、部屋と人物のフレーミングなど）を利用できます。

次の Cisco デバイスは、近い将来 Microsoft Teams の認定を受ける予定です。

- Cisco Board Pro（2023 年第 1 四半期に予定）
- Cisco Room Bar（2023 年第 1 四半期に予定）
- Cisco Room Kit Pro（2023 年第 1 四半期に予定）
- Cisco Room Kit EQ（2023 年第 2 四半期に予定）
- Cisco Desk Pro（2023 年第 2 四半期に予定）
- Cisco Room Navigator（2023 年第 2 四半期に予定）

まとめ

一般的なハイブリッド ワーカーは、複数のプラットフォームでビデオ会議に参加します。企業が 1 つのプラットフォーム（Webex、Microsoft Teams、Zoom Meetings、Google Meet など）で標準化している場合でも、ユーザーは他のプラットフォームでパートナー、クライアント、お客様とコミュニケーションする必要があります。

ただし、現在、ほとんどのビデオ会議室は単一のビデオ プラットフォームしかサポートしていません。

ビデオの相互運用性により、あるプラットフォームのビデオ システムが、他のプラットフォームでホストされている会議に参加できるようになります。しかし、ビデオの相互運用では、コストが増加したり、使いやすさに影響が出たり、その他いろいろな点で妥協をしなければならなくなる可能性があります。

シスコはまもなく、Microsoft Teams のお客様に、Teams と Webex の両方の会議中に、同じ会議室とビデオ デバイスからフル機能のネイティブの体験を提供する最初のベンダーになります。

素晴らしいのは、これらのビデオ システムが、管理者のサポートや再起動なしで、Teams から Webex に（そして再び Teams に）自動的に切り替わることです。

Microsoft Teams を導入した組織は、同じビデオ デバイスから高品質でフル機能のネイティブ Microsoft Teams と Webex ミーティングをすぐに利用できるようになります。文字通りすぐにです。

シスコについて



(以下の情報は Cisco により提供されています)

シスコは、インターネットを強化するテクノロジーの世界的リーダーです。シスコは、アプリケーションを再考し、データを保護し、インフラストラクチャを変革し、グローバルで包括的な未来に向けてチームを強化することで、新しい可能性へのインスピレーションを生み出します。

[Newsroom](#) で詳細を確認し、Twitter で [@Cisco](#) をフォローしてください。

Recon Research について



Recon Research (RR) は、エンタープライズコミュニケーションに特化したアナリストおよび市場調査会社です。当社のサービス範囲には、ユニファイドコミュニケーション (UCaaS)、ビデオ会議 (VaaS)、コラボレーションおよびアイデアプラットフォーム、視聴覚 (AV) ソリューション、ワイヤレスプレゼンテーションシステムなどが含まれます。

RR は、企業顧客、ベンダー、チャネルパートナー、および投資の専門家に、事実に基づいた意思決定を行うために必要な情報と洞察を提供します。

RR の強みは、20 年にわたる企業調査、市場分析、これらの市場における製品とサービスの実地テストから得た深い知識と経験です。

詳細については、www.reconres.com をご覧ください。

連絡先

Recon Research, Inc.
11910 Lake House Lane
Parkland, FL 33076 USA

著作権表示

このドキュメント内の情報は、Recon Research, Inc. (RR) が所有し、米国および国際著作権法によって保護されています。

商標通知

本書に記載されているすべての会社名、製品名、またはサービス名は、それぞれの所有者の商号、商標、または登録商標です。

画像とグラフィック

この出版物で使用されているすべての画像またはグラフィックは、RR によって作成、所有、またはライセンス供与されているか、それぞれの所有者の厚意により提供されています。